

北竜町立義務教育学校基本構想

令和7年9月

北竜町教育委員会

北竜町立義務教育学校建設における基本構想について

1 北竜町の教育方針

- ① 子どもたちが新しい時代を生き抜くために必要な資質や能力を育む特色ある教育を推進
 - 子育て支援も含めた一体的な子どもの教育環境づくりに取り組みます
 - 小中一貫教育の実現により、教育の質を高め、特色ある学校づくりを行います
 - 学校と保育園の連携を強化し、子ども一人ひとりの特性に合わせた教育の質の向上に努めます
- ② 地域みんなで多様性を受け入れ、こどもの社会性を育む
 - 学校と地域・家庭が連携して、「地域みんなで子どもを育てる」開かれた学校づくりを進めるとともに、多世代交流を通して子どものコミュニケーション能力を養います
 - 地域の子どもの居場所となり、地域住民が集い交流できる拠点づくりを行います
- ③ 「ひまわりのまち北竜」への愛着と社会に貢献する力を育む（郷土愛の醸成）
 - 「ひまわりのまち北竜」の自然・文化・産業・歴史をリアルな体験を通して学びながら、地域を愛し自ら語ることで、人の役に立つことの喜びを感じられる人づくりにつなげます
- ④ 子どもが安心して通える環境と職員が働きやすい環境の整備（教職員の働き方改革/通学手段の検討）
 - 地域みんなの目で子どもを見守り、安心して通える安全な学校づくりを進めます
 - ICT(通信情報技術)活用により、学びの質の向上、緊急事態への対策、教員の働き方改革の推進につなげます
 - 通学等の移動手段の確保に向けた検討を進めます

(1) 学校整備の方向性

北竜町では、令和2年3月に今後の学校施設整備や維持管理等の方針について定める北竜町学校施設長寿命化計画、令和5年3月には、学校施設整備をはじめとして町中心部における公共施設の集約・再編等の方針や構想について定める北竜町公共施設再配置計画を策定しました。

計画策定の中で真竜小学校・北竜中学校、公民館、図書館・郷土資料館は建て替える方針となり、真竜小学校と北竜中学校は、両施設とも築45年以上経過し、老朽化が進んでいることから、小学校と中学校を施設一体型で、児童生徒の通学や学童保育の利便性、公民館・図書館等との連携、まちの賑わいの創出の観点から真竜小学校周辺エリアに新築することと方向づけました。

新築する学校は、9年間をひとつの学びと捉える義務教育学校を採用し、「4・3・2」などの教育課程上の区分の見直し、郷土愛を育む「北竜学科」、異文化との交流を促進する「英会話科」、子どもたちのチャレンジスピリッツを育む「チャレンジ科」など特色ある専科教育の設置や、小学校高学年からの教科担任制の導入（専科教育の導入）を推進し、少人数クラスだから出来るきめ細やかな教育を目指します。

また、義務教育学校のメリットである学年を超えた縦のつながりや他校の生徒との交流を深めると共に、自己表現力やコミュニケーション能力を高めさせ、社会性を育成したいと考えています。

更に地域に開かれ、地域の核となり、地域の人材も輝くことのできる施設となるよう保護者、地域

住民等が学校運営やコミュニティスクール活動などで連携、協働できる仕組みと空間をつくるとともに、災害発生時にも活用できる施設にしたいと考えています。

設計にあたっては、生活空間と学習空間を可能な限り融合させることで、最少の経費で最大の効果が上がるよう引き続き検討を進めます。

2 義務教育学校施設の整備方針

1. 子どもたちの学習環境について

(1) 主体的で意欲的な活動を支援し、学び合いを引き出す施設

- ① 児童生徒の意欲を育て、活躍したり自己表現ができる場を設ける
- ② 教室に限らず廊下等どこでも学習ができる空間を設ける
- ③ 教科の特性に応じた資機材や、授業内容によって柔軟に組み合わせができる机など、学ぶ側の主体性を引き出すことのできる空間を整備する
- ④ 北竜の自然・文化を学ぶ「北竜学」、異文化との交流のための英会話教育、子どもたちのチャレンジスピリッツを育成する新しい教科に対応した施設を設ける
- ⑤ クラスや児童生徒会、部活動など、時季や天候にも制限されない、やりたいことに熱中できる活動の場を設ける

(2) 知的探究型の授業、対話的な学びなど、多様な学習形態を可能とする施設

- ① IT環境の充実による将来を見据えた専門性の高い学習環境の整備により、基礎的な情報処理はもとより、ネットワーク構成や情報モラル、セキュリティなど、多彩な学習を行うことができる
- ② 課題に集中して取り組み、導き出した意見を広げ深め、応用させていく対話的で深い学びに効果的な教室の空間（壁面の確保）及び配置を行う
- ③ 学ぶことに興味や関心を持たせるために効果的な資料展示スペースと、教材及びメディアが充実している
- ④ 全校集会や発表、成果品の展示のほか、上映会や講演会を行うことができる
- ⑤ 児童生徒の「読書センター」及び「学習・情報センター」としての機能を隣接する複合施設に持たせることを前提のもとに諸室が配置されている
- ⑥ 楽器や資機材のほか、音読やリスニングなどの音環境へ配慮する

2. 子どもたちの生活環境について

(1) 児童生徒一人ひとりを尊重し、明るく清潔で、やすらぎのある施設

- ① 校舎は、温もりを感じられ、柔らかな自然光を取り入れ、季節の風を取り込むことのできる明るくゆとりある空間で、心身ともに安らぎを感じることができる環境である
- ② 広く圧迫感のない玄関や廊下には、教科の資料や成果の展示スペースが設けられ、活動やコミュニケーションのためのスペースも併設されている
- ③ クラス活動や生活の拠点となる教室は、十分な個別収納のほか居場所にも配慮した構成で、低学年では教室内にクールダウンが出来るスペースを設ける

- ④ 気を遣うことなく使いやすいトイレは教職員の目が行き届く場所に配置し、広く、明るく、掃除のしやすい工夫と共に心落ち着く環境である
- ⑤ 特別な支援が必要な児童生徒にとっても、落ち着いて過ごすことのできる空間が用意されている
- ⑥ 各教室の状況に応じて調節できる空調により、快適な学習環境を保つことができる

(2) 児童生徒の居場所があり、安心して健やかに成長できる施設

- ① 日常の相談やクールダウンができる部屋、個別相談に対応できるカウンセリングルームなどを、児童生徒の視点に立った使いやすい場所に、適切に配置する
- ② 児童生徒たちの意志や判断で気軽に使用でき、自分の、そして自分たちの居場所と感じられるような学習、休憩用スペースを確保する
- ③ 明るく開かれ、いつでも相談できる保健室は、休養や処置に必要な設備が整い、緊急時の動線にも配慮する
- ④ 防犯（防犯カメラの設置）や安全対策、落雪対策がなされ、安心して学校生活を楽しむことができる

(3) 異年齢が交流し、社会性を育む施設

- ① 「人と関わる」喜びを育む異年齢交流により児童生徒の社会性を育み、進級の喜び（空間デザイン）、役割の推移を学ぶことのできる環境である
- ② 学年ごとに教室の雰囲気を変えたり、色彩やデザイン、家具や照明に配慮するなど、感性を磨き、楽しく飽きない学校生活を支援する環境である
- ③ 学年を超えた縦のつながりを深め、コミュニケーション能力を高めさせるよう、他学年との交流を図るスペースを計画する（共有学習スペース「学習コモン」や廊下にオープンスペース（広場やギャラリー）を設ける）（日常の動線から接点をつくる：階段の場所）

3. 職員の労働環境について

(1) 教員の創意工夫も引き出せる、働きやすく管理がしやすい施設

- ① 教科の特性やICTに幅広く対応した設備、教具が整った教室では、専用の掲示物や教材などを配置でき、教師の手による雰囲気づくりを行うことができる
- ② 職員室は、集中とコミュニケーションが両立できるオフィス空間として、ワークスペースや印刷室などの諸室に隣接し、また、授業はもとより生活指導や行事等、移動や作業しやすい位置を考慮する
- ③ こどもの安全を配慮した職員間の連絡ツールを整備する
- ④ 応接室や会議室に加え、教員同士の談話や休息、準備スペースの確保と共に、教材や学習用具などを整理できる棚や教材庫を適所に配置する
- ⑤ 照明や空調、施錠など日常の管理面も充実している

4. 学校施設の地域貢献について

- (1) 自然災害にも屈しない、誰もが使いやすい安全でユニバーサルな施設

- ① 大雨による洪水等にも配慮した校舎の配置、構造である
 - ② 避難所としての運用も考慮し、管理や救護、食事の提供、排泄などを見据えた機能的な施設配置を検討する
 - ③ 双方向の移動にも配慮した階段や廊下は広く機能的に配置し、バリアフリーでユニバーサルな環境に配慮する
- (2) 周辺環境等への配慮と、将来を見据えた、柔軟でバランスの取れた施設
- ① 学校敷地内の暗渠排水等への影響のほか、大雨による一時的な増水などにも十分配慮した排水計画に基づく整備を行う
 - ② 人口減少や集約化、効率化などが望まれる時代にも、大きく使えたり小さく仕切れたり、共用や転用など柔軟に対応できる施設配置とする
 - ③ 周辺の交通事情、保護者の送迎や自転車通学の児童生徒たちの事も十分に考慮した安全な動線を確保する
 - ④ 防火、防音、空調効率のほか、エコや通信など多角的な視点で教室配置を行い、設備や資材、配管の検討を行うなど、未来につながる環境整備に取り組む
 - ⑤ 将来にわたり長く使い続けられるよう、メンテナンスしやすく、全体としてエネルギー消費の少ない施設とする

5. 地域と共に成長する仕組みについて

- (1) 地域に開かれ、地域の核となり、地域の人材も輝くことのできる施設
- ① 保護者、地域住民等が学校運営やコミュニティスクール活動などで連携、協働することを支援するための諸室を設ける
 - ② 学校と地域との自然な交流を図り、積極的な行事への参加や、アイデアを取り入れる工夫、ボランティア人材の活用、子どもたちの見守りや防犯対策など、地域力を最大限に発揮できる環境を検討する
 - ③ 地域の人と一緒に学ぶことができる地域学習の拠点となりうる施設配置を検討する

6. 町民が誇りを感じられる学校づくりについて

- (1) 自然や伝統など多様な価値観に触れながら、自尊心と郷土愛を育む施設
- ① 北竜の自然に溶け込む佇まいで、児童生徒が誇りをもち、町民の心の拠りどころとなるような特色を持たせる
 - ② 北竜町の豊かな自然、歴史、伝統文化、アートなどを身近に感じられる工夫を取り入れる

施設整備にかかる参考資料

1. 提案された配慮事項

検討する中で、提案された配慮事項は次のとおりです。

なお、諸室等は基本的な名称や望ましい環境で取りまとめていますが、整備計画に際しては、必要な機能を満たしながら、柔軟な組み立ても考えられます。

名称・環境等	配慮事項
全般	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活空間と学習空間をできる限り融合した施設づくりを行うこと ● 校舎内外を問わず、効果的なコミュニケーションスペースを配置すること ● 空調や照明は、使用頻度や配置場所にも配慮した仕様で、部屋ごとに調整できるもの、かつ集中管理も可能であることが望ましい ● 情報化の進展による情報機器の使用が、各部屋においても可能となるよう計画すること ● 死角が少ない、開放感のある空間で、児童生徒が利用しやすい施設であり、場所であること
安全面	<ul style="list-style-type: none"> ● 敷地内は歩車道分離で安全であること ● 転落や落下などへの安全対策 ● 落雪や凍結、雨天時を考慮した安全対策 ● 消火器や屋内消火栓ボックスは壁面に収め突起を少なくすること ● 緊急時を想定し、教室等の出入り口は複数が望ましい
衛生面	<ul style="list-style-type: none"> ● 乾式の洋式水洗トイレを配置すること ● 学年に応じた施設を配置すること ● センサー式水洗いを設置すること ● 視覚的にも清潔な工夫を検討すること
環境面	<ul style="list-style-type: none"> ● 柔らかな自然光、外気の取り込みなど建具や構造を工夫すること ● 環境、効率、ランニングコスト、メンテナンス等総合的に勘案した空調設備の選定を行うこと
防災拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所として活用することを想定し、誰もが使いやすいバリアフリーな施設にすること
地域交流	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域とともにある学校づくりを推進するため、学校運営協議会委員や北竜学のためのボランティアなどの専用室を設置する
校舎周辺 外部空間	<ul style="list-style-type: none"> ● 植栽や植樹は管理面にも配慮して実施すること ● 社会に開かれた学校として、地域住民との接点に配慮
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校行事や地域利用に配慮した、広く安全確保のできた駐車場
駐輪場	<ul style="list-style-type: none"> ● 雨天時は駐輪場で雨具を脱ぐため、配置や動線に配慮すること ● 憩いの場にもなるような工夫をすること
外観	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺の環境や自然に溶け込む佇まいでありながら、北竜町らしい工夫を取り入れること
内装	<ul style="list-style-type: none"> ● 落ち着きと温かみのある内装

	<ul style="list-style-type: none"> ● 進級の喜びを感じられるデザイン ● 掲示や展示スペースの多い内装であり、展示・撤去が容易であること
昇降口	<ul style="list-style-type: none"> ● 来客者の対応が職員室からできる設備を設ける ● 児童生徒用、職員用、一般用のスペースを設ける ● 行事等で一度に多学年が利用する際も滞留することがないように、靴箱の配置や広さを工夫 ● 雨や雪の際に雨具や長靴を置くことができるよう工夫する（スニーカーと長靴の両方がおける靴箱） ● 冬季の防寒着、手袋、帽子、スノーカバーを収納できるスペース ● お知らせや成果物を掲示できるスペースを確保 ● 登校で最初に入る昇降口、ホールは明るくする（暗いとテンションが下がる）
ホール	<ul style="list-style-type: none"> ● 異学年が交流できるオープンスペースを検討（ホールに限らないが、交流スペースを確保）
廊下	<ul style="list-style-type: none"> ● 単に通路ではなく、様々な形態の居場所を配置 ● 明るい廊下に学習の成果などを展示でき、学びの場とすること ● 死角となる場所や衝突がおきないように配慮する
階段	<ul style="list-style-type: none"> ● 異学年・異年齢が日常生活の中で自然と接することになる場所に配置 ● 採光に配慮し、体格差のある9学年が利用するため2段手すりなどを適材適所に配置する
教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な学習形態・活動の変化に柔軟に対応できる教室を整備 ● 机寸法の拡大、自由な配置転換に対応できる教室スペースを確保する ● 教室の配置又は児童生徒用ロッカー、掃除道具入れ、配膳台等を教室外に配置する ● 子どもたちが自ら教室のレイアウトを考えられるようロッカーなど家具は可動式にする ● 多様な協働学習の場として自由度を高めるため、壁面を確保し、教室の正面性をなくす ● 教室と隣接する廊下や交流スペースは連続性・一体性を確保するため、可動式の壁面やドアなど工夫する ● 遠隔・オンライン交流、書き込み可能なプロジェクターや電子黒板など最新のIT機器に対応した十分なICT環境を整備する
特別支援教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 人目を気にしたり、音に過敏に反応してしまう気が散りやすい児童生徒の心理負担を軽減できる場所に設置 ● 昇降口を利用せず出入りができる工夫 ● 児童生徒の障害の状況に応じて、カーペット敷や間仕切りなどが設置できる工夫 ● 子どもたち自身が必要な空間、レイアウトを創り出すことのできるスペースと可変的な工夫

	<ul style="list-style-type: none"> ● 室内での活動が多いため、プレイルーム機能を持つ空間のほか十分な収納スペースの確保と水道を教室内に整備 ● シャワースペースを設置（2F） ● トイレを設置
多目的室	<ul style="list-style-type: none"> ● 大きく使えたり、小さく仕切れたり柔軟な活用ができる仕組み ● 発表会や体育の授業等多目的に利用できるスペースを確保（多目的室・プレイルーム） ● 習熟度別対応など、教える環境の整備も検討 ● 英会話科、北竜学科、チャレンジ科など北竜町の特色ある教育環境を整える
教科教室	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科の掲示物や教材、クラスや学年を超えた児童生徒たちの学習成果が展示してあり、教科に対する親しみと、学び合う環境づくりがいたるところに見える工夫 ● 教科準備室の配置については、複数教科での共有等、機能的なものになるよう検討すること ● 音楽室や技術室は、音に対する対策を講ずること
校長室	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員室との動線を考慮 ● 校長の執務スペースと応接スペースを確保
職員室	<ul style="list-style-type: none"> ● 執務スペースは、室内の見通しがよく、必要に応じて机などのレイアウト変更がしやすい ● 教室への移動がしやすい場所に配置 ● 登下校、グラウンドの活動が確認できる場所に配置（死角がないようにカメラ設置） ● オンライン会議や研修などができる壁面、スペースを設ける ● グループでの打合せ、教材の製本など協働作業ができる共有空間を設ける ● 照明、空調、冷暖房機、防犯カメラ等の一斉制御ができる設備やコンピュータ等のサーバ室の設置 ● 来訪者玄関からのアクセスを考慮 ● 職員休憩室は視線に配慮した配置
2階職員控室	<ul style="list-style-type: none"> ● 2階へ職員控室 相談室、印刷室や作業スペースの検討
給湯室	<ul style="list-style-type: none"> ● 通常の給湯から来客対応などに対応できる場所に配置
印刷室	<ul style="list-style-type: none"> ● 関係する用品が収納でき、作業のしやすいスペースを確保 ● 職員室に近接
相談室 カウンセリングルーム 不登校対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 少人数での打ち合わせができる広さとし、3室程度を確保 ● プライバシーに配慮し、普通教室と離れた位置に配置し、1，2階それぞれに配置 ● 進路相談や保護者面談、クールダウン、学校に行きづらい児童生徒の対応など多用途に利用可能な施設とする ● 昇降口を利用せず出入りができる工夫と設えの工夫

保健室	<ul style="list-style-type: none"> ● 運動場や体育館、職員室との位置関係に配慮する ● 屋外から直接入ることのできる工夫 ● 救急車両等が横付けできる場所に配置されることが望ましい ● ベッドや流し台、シャワー、トイレ、洗濯機など必要な設備を機能的に配置する
児童会室 生徒会室	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童会・生徒会の主体的な活動の様子が他の児童生徒から見えるつくり
放送室	<ul style="list-style-type: none"> ● 緊急時にも教員が使いやすい場所に配置 ● 児童生徒が活躍し、意欲を育てる場所（スタジオ） ● 教職員のオンライン授業コンテンツの作成や子どもの動画制作などにも活用できるよう整備
手洗い場	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な場所に配置 ● 体育の授業終わりや習字の筆を洗うなど、一斉に使用することに対応できる手洗い設備
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ● 乾式洋式トイレ ● センサー式水栓の設置 ● 各階に多機能トイレの設置
職員更衣室	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能的な場所に配置（職員昇降口付近に配置） ● 全員分のロッカーを設置
児童生徒更衣室 ロッカールーム	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能的な場所に配置し、居場所にもなる場所 ● 明るく、閉塞感のない場所で、更衣の際は外からの視覚を遮断できる
倉庫・教材庫	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能的な場所に配置
コンテナ室	<ul style="list-style-type: none"> ● 配送される給食を保管する場所 ● 給食配送車が横付けできる場所に配置し、2階フロアに配膳室を整備
エレベーター	<ul style="list-style-type: none"> ● 配食などの動線、歩行が困難な子どもや保護者の動線を考慮し、配置 ● 救急搬送等緊急時を考慮した配置
ボランティア室	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域学校協働活動推進員や北竜学のためのボランティアなどが準備、待機できる場所を設置する
外部空間	<ul style="list-style-type: none"> ● バリアフリーであること ● ユニバーサルであること ● 学校と地域をつなぐ縁側的空間を配置